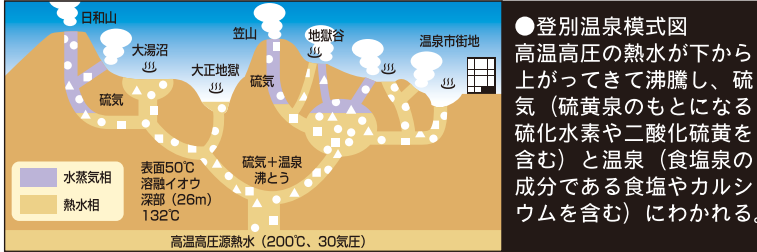


世界に誇る9種の泉質

温泉とは、地中から湧出する温水および鉱水や水蒸気、ガスの温度が摂氏25度以上か、もしくは温泉法で定められた物質のいずれかひとつの基準量を含んでいるものを呼ぶ。登別温泉の大きな特徴は、9種類もの源泉がわき出していることで、これは非常に珍しい。



にっぽんの温泉100選にも
選ばれています



登別温泉の泉質と効能を 紹介します。 (【 】内は揭示用新泉質名)



酸性泉【酸性泉】

PH (水素イオン濃度) が3以下で、火山地帯に多い無色透明の温泉。殺菌力が強いので湿疹などに効果があるとされているが、皮膚の弱い方は入浴後に真水で洗い流した方がよい。

硫黄泉【硫黄泉】

登別は硫化水素型。見た目は乳白濁で独特のにおいがある。毛細血管や冠状動脈を拡張させる働きがあるため、慢性気管支炎や動脈硬化症に効くほか、解毒作用により慢性皮膚病にも良いとされている。

食塩泉【塩化物泉】

日本では、最も多い泉質のひとつ。無色透明で、塩辛い味がする。保温効果が高く、ポカポカと湯冷めしないため『熱の湯』とも呼ばれる。神経痛や腰痛、冷え性などに効き目がある。

鉄泉【含鉄泉】

鉄イオンを1キログラム中、20ミリグラム以上含んでいる源泉。空気に触れると赤茶色になり、金属味がすることもある。良く温まり、貧血症や慢性湿疹などにも良いとされている。

明ばん泉【含アルミニウム泉】

明ばんとは、硫酸アルミニウムの中で、火山地帯に多い泉質。皮膚や粘膜を引き締め、慢性の皮膚疾患や粘膜の炎症、水虫、じんましんなどに良く、道外では草津温泉が有名。

芒硝泉【硫酸塩泉】

硫酸塩泉のひとつで、陰イオンが硫酸イオン、陽イオンはナトリウムが主成分。無色透明で塩味がある。高血圧症や外傷、動脈硬化症などに良いとされている。

石膏泉【硫酸塩泉】

硫酸塩泉のひとつで、陰イオンが硫酸イオン、陽イオンはカルシウムが主成分。鎮静効果があり、切り傷、やけど、打ち身、痔に良く、高血圧症や動脈硬化症にも良いとされている。

緑ばん泉【含アルミニウム泉】

陰イオンが硫酸イオン、陽イオンは鉄が主成分。強酸性で、銅やマンガンなどの鉱物を含むことが多い。良く温まり、貧血症や慢性湿疹などに効き目がある。

重曹泉【炭酸水素塩泉】

陰イオンが炭酸水素イオン、陽イオンはナトリウムイオンが主成分。無色透明で皮膚の角質層を軟らかくし、分泌物を乳化する作用があるので『美人の湯』とも呼ばれている。皮膚病や切り傷などに良いとされている。



登別温泉から北西へ約8キロ、車で10分のところに位置するカルルス温泉は、明治19年、日野愛意が登別川上流の調査をしていた際に発見した。その3年後、愛意の養子・久橋が再びこの温泉を発見。試しに温泉の湯を飲んだところ、持病の胃力タルが治ったことから興味を抱き、温泉の開発に情熱を注ぐことになる。明治32年、道路や旅館を整備し、当時、世界的に有名な温泉保養地として知られていた、チエコスロバキアのカルルスバード（現在のカルロビ・パリー）に泉質や地形が似ていることから、カルルスと命名された。泉質は、無味・無臭・無色透明の芒硝性単純温泉。昭和32年には、国から北海道で最初の国民保養温泉地に指定された。

登別の奥座敷 カルルス温泉

